

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	34-1
PDCA	主要事業名		文化財等公開活用事業		部課名		教育部博物館		担当 内線	谷川 23-7173	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と継承										
	全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 3,697 千円										
	会計		一般会計		歳出科目： 09.05.01.04.02						
	事業概要等		事業概要： 指定文化財や登録文化財、文化財には指定されていないが地域の貴重な資料、博物館の収蔵資料等を、博物館を拠点とした展示や講座、情報発信等の公開活用を行うことで、市民自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍していくための意識を高めるため、その基となる郷土の自然、歴史、文化に対する愛着と誇りを育てる。								
			事業目的： 博物館や地域で所蔵する未公開資料等を活用し、市民自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍するための基礎として、地域への愛着と誇りを育てる。								
			事業内容： 物理的制約の中で五感で体感する展示や講座を充実するために、収蔵資料のデータ化や、OA機器の活用、文化財の担い手等による講演を行う。								
			問題点・課題等： 郷土の自然、歴史、文化に対する愛着と誇りは、本物を五感で体感し、感動することによって育まれるが、展示や講座を行うスペースには限りがある。								
	予算額		主要事業とする理由								
	3,697 千円		博物館を拠点とし、半田市の貴重な文化財等（指定・未指定）を活用することで、市民の文化的教養や保護意識の向上を図る事業である。								
	財源内訳		得られる成果								
市費 1,137 千円		市民が地域独自の資源の大切さを理解し、自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍していくための意識を高めることができる。									
国費 0 千円		目標値や目指すべき状態									
県費 0 千円				令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位				
		半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合	実績値	—	—	—	%				
			目標値	—	—	53.0	%				
		博物館年間入館者数	実績値	80,402	87,966	—	人				
その他 2,560 千円				目標値	100,000	100,000	100,000	人			
				実績値							
				目標値							
D 得られた成果と実績値	決算額		得られた成果								
	3,428 千円		阿久比の大山車と調整し、「第9回はんだ山車まつり」開催期間中も博物館に半田の山車と同じ知多型の山車を展示することができた。また、データ化した古文書などの未公開資料も映像機器を使用して公開することができた。								
			成果指標				令和5年度	単位			
	半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合				実績値	44.2		%			
					目標値	53.0		%			
	博物館年間入館者数				実績値	88,865		人			
					目標値	100,000		人			
C 課題の整理	事業の評価・課題		C 企画展や館蔵品展などで郷土の自然や歴史、文化を伝える展示を実施したほか、博物館に展示している山車でお囃子やからくり人形を上演し、山車文化に触れる機会を提供することができた。また、「化石を発掘しよう」などの体験講座や比較的簡単な古文書を読み解く初心者向けの「やさしい古文書講座」などを実施し、年間来館者数も、コロナ禍前の平成30年度（95,961人）の93%まで回復することができた。一方で、多くの市民に、歴史や文化に関心を持ってもらえるような情報発信を行っていく必要がある。								
A 課題の解決に向けた			改善推進								
	今後の事業の方向性		今後も、データ化した収蔵資料を活用するとともに、魅力的な企画展や講座などを実施し、半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合や来館者の増加を図る。								
	観点別評価		必要性		有効性			効率性			
			①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい		⑦コスト削減余地	ない		
			②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある					
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない		⑧受益者負担適正化余地	—			